

アイルランド・メソジスト教会における 北アイルランド和平推進教育への取り組み

齋藤元子

1. はじめに

英国の西側に位置するアイルランド島は、アルスター (Ulster)・レンスター (Leinster)・コナハト (Connaught)・マンスター (Munster) の4地域から成り、北部のアルスターには9つの県 (county) が存在する。9県のうち、3県¹は他の3地域とともにアイルランド共和国を形成している。残る6県²は北アイルランドとして英国に帰属している。

北アイルランドは、1949年アイルランド共和国が英国から独立した際³、英国に留まった。それは、英国からの移民をルーツに持つプロテスタント系住民が多数を占めていたからである。しかし、1960年代後半になると、アイルランド共和国への併合を望むカトリック系住民と英国による統治の継続を望むプロテスタント系住民の対立が激化し、30年以上にわたるテロ行為が繰り返され。約3,600人が犠牲になったといわれている⁴。これが現地でト

¹ 3県は Donegal、Cavan、Monaghan

² 6県は Antrim、Down、Derry、Tyrone、Armagh、Fermanagh

³ 1921年アイルランドを自由国とすることを英国が認めた「英アイ条約」や1937年の新憲法成立を経て、アイルランド共和国成立へと至る。(波多野祐造著『物語アイルランドの歴史 欧州統合に賭ける“妖精の国”』中公新書、1994年、277頁。)

⁴ 酒井朋子『紛争という日常 北アイルランドにおける記憶と語りの民族誌』人

ラブルズ (The Troubles) と呼ばれている北アイルランド紛争である。

1998年のベルファスト和平合意、2006年のセントアンドリュース合意を経て、プロテスタント系政党とカトリック系政党が共同運営する自治政府が機能するようになり、北アイルランドの和平は着実に進行している。本稿では、和平合意以降、さらなる和平の推進を目指して、アイルランド・メソジスト教会がどのような取り組みを行っているかを教育活動に焦点を当てて考察する。

アイルランド・メソジスト教会の教育活動を論じるにあたっては、北アイルランド特有の教育システムにも触れる必要がある。論文構成は以下の通りとする。まずは北アイルランド社会の現況を概説する。次いでアイルランド・メソジスト教会の機構ならびに教勢を紹介する。そして、北アイルランドにおける学校教育の現状を示した上で、アイルランド・メソジスト教会の取り組みについて論じたい。

2. 北アイルランドの現在

和平合意以降、北アイルランド自治政府は、2012年6月のエリザベス女王の来訪、2013年6月の主要8カ国(G8)首脳会議の開催という大きなイベントを実現させ、国際社会に和平の実績を印象づけた。

だが、その一方で、自治政府が置かれている北アイルランド第一の都市ベルファストに目を向けてみると、市内にはプロテスタント地区あるいはカトリック地区とみなされている場所が存在し、住民が分離して生活するセグレーションの状況が依然継続している。両地区の間にはピース・ラインまたはピース・ウォールと呼ばれる壁がある。これらの壁の大半は、紛争が激しかった1960年代から80年代に建てられた。プロテスタントとカトリックの接触を物理的に困難にすることによって、暴動や犯罪の発生を抑えようとしたのである⁵。

文書院, 2015年, 16頁。

⁵ 齋藤元子「ベルファスト市街地図」, 大分県アイルランド研究協会会報第31号, 2015年, 6頁。

現在市内には42カ所にピース・ラインがあるそうだ⁶。今日では、住民が壁を挟んで日々対立しているわけではない。しかし、物理的にも心理的にも壁を越えて、両者が積極的に交流しているとも言い難い⁷。プロテスタント地区とカトリック地区が隣接する地域に誕生したショッピング・モールは「共有空間」の創設を目指して建設されたにもかかわらず、プロテスタントの顧客とカトリックの顧客は異なる出入り口を利用し、摩擦を回避しているようだとの指摘さえある⁸。

2014年春に実施された若者を対象とする調査においては、1/3近くが自分とは異なるプロテスタントあるいはカトリックの同世代の若者とめったに会うことはないと回答している⁹。これは後述する北アイルランド特有の教育システムも影響していると考えられる。

2011年の国勢調査では、北アイルランドの人口は1,810,863人。宗派別の割合は、プロテスタントが48.36%、カトリックが45.14%とプロテスタントがやや上回っている。ベルファスト市に限るならば、人口は280,962人、プロテスタントが42.3%、カトリックが48.6%と、北アイルランド全体の割合とは異なり、カトリックが上回っている。10年前の2001年の国勢調査では、ベルファストのプロテスタント人口は48.7%、カトリック人口は47.2%とプロテスタントが僅かながら多かった¹⁰。10年間におけるカトリ

⁶ *Andersonstown News* 2011年9月12日掲載記事

⁷ 交流の一例として、以下の新聞記事をあげておく。「ベルファスト北部にあるアレキサンドラ公園は、まさにプロテスタント地区とカトリック地区にまたがる形で広がっている。それゆえに、1981年のオープン以来、公園内にはピース・ラインが敷かれ、西ヨーロッパで唯一の分断された公園と形容されてきた。2011年、両サイドの住民の協力によって、壁の一部が解放され、公園内での交流が始まるとともに、プロテスタントとカトリックの子どもたちが一緒に楽しめる催しなども開かれている」(*North Belfast News* 2011年12月22日掲載記事)

⁸ ポーラ・ゴウリー著、齋藤元子訳「ベルファスト観光バスツアー考」空間・社会・地理思想17号、2014年、47頁。

⁹ *Belfast Telegraph* 2014年4月7日掲載記事

¹⁰ 佐藤亨『北アイルランドのインターフェイス』水声社、2014年、71～72頁。

ック人口の増加により、両者の数値は拮抗し、マジョリティ／マイノリティといった表現が当てはまらないような状況を呈している。

3. アイルランド・メソジスト教会

アイルランド・メソジスト教会(The Methodist Church in Ireland)はアイルランド全島を包括する教会である。北アイルランドに所在する教会も、英国メソジスト教会(The Methodist Church in Britain)ではなく、アイルランド・メソジスト教会に属している。すなわち、教会領域にはアイルランド共和国と英国という二つの国家が存在しているわけである。

アイルランド・メソジスト教会には 8 つの教区がある。ベルファスト(Belfast)、ダウン(Down)、ダブリン(Dublin)、レイクランド(Lakelands)、ミッドランド・南部(Midlands & Southern)、北東部(North East)、北西部(North West)、ポータダウン(Portadown)の 8 教区である。このうち、ベルファスト教区、ダウン教区、北東部教区は北アイルランド内にある。一方、ダブリン教区とミッドランド・南部教区はアイルランド共和国内にある。残るレイクランド教区、北西部教区、ポータダウン教区は北アイルランドとアイルランド共和国にまたがっている。

アイルランド・メソジスト教会の教会員数は 2014 年の調査では 45,282 名である。教区別の数値を示すと、ベルファスト教区 11,217 名、ダウン教区 7,830 名、ダブリン教区 2,706 名、レイクランド教区 3,346 名、ミッドランド・南部教区 2,439 名、北東部教区 9,331 名、北西部教区 2,861 名、ポータダウン教区 6,098 名となっている¹¹。

上掲の数値を比較すると、北アイルランドにあるベルファスト教区、ダウン教区、北東部教区の規模が大きく、この 3 教区の合計は全教会員数の約 63% に相当する。なかでも北アイルランド最大の都市ベルファストを擁するベルファスト教区は全教会員数の 1/4 近くを占めている。

アイルランド・メソジスト教会には 215 の教会が存在する。その内訳は、

¹¹ <http://www.irishmethodist.org/membership-and-minister-statistics> 2016 年 1 月 24 日閲覧

ベルファスト教区 26、ダウン教区 22、ダブリン教区 19、レイクランド教区 31、ミッドランド・南部教区 31、北東部教区 20、北西部教区 24、ポータダウン教区 42 である¹²。

教会数においては、北アイルランドに多くの教会が偏在するといった傾向は認められない。北アイルランドとアイルランド共和国にまたがるポータダウン教区に最も多い 42 の教会があり、アイルランド共和国内のミッドランド・南部教区にもベルファスト教区を上回る 31 の教会がある。

アイルランドでは、アイルランド教会 (Church of Ireland) ・長老派教会 (Presbyterian Church in Ireland) ・メソジスト教会が三大プロテスタント教派とみなされているが、メソジスト教会と他の 2 教会では、教会員数にかなりの開きがある。2011 年の国勢調査によると¹³、アイルランド教会は 377,860 名 (北アイルランド 248,821 名・アイルランド共和国 129,039 名)、長老派教会は 369,701 名 (北アイルランド 345,101 名・アイルランド共和国 24,600 名) と、上述したメソジスト教会の 45,282 名よりもはるかに多い。ちなみにカトリック教会は 4,599,368 名 (北アイルランド 738,033 名・アイルランド共和国 3,861,335 名) である。

4. 北アイルランドにおける学校教育の現状

日本で「共学」と言えば、男女共学のことであるが、北アイルランドにおける「共学」は意味が異なる。男子校であれ、女子校であれ、プロテスタントとカトリックが共に学ぶことが「共学」である。

¹² <http://www.irishmethodist.org/find-church> 2016 年 1 月 24 日閲覧

¹³ Statistics Bulletin “Census 2011: Detailed Characteristics for Northern Ireland on Health, Religion and National Identity” Table CD2118NI, 2013, Northern Ireland Statistics & Research Agency. Population by Religion Census Year and Statistics, CD768, Central Statistics Office Republic of Ireland. <http://www.cso.ie/px/pxeirestat/Statire/SelectVarVal/saveselections.asp> 2015 年 12 月 31 日閲覧

北アイルランドの学校教育は、長い間、主にプロテスタントの子どもたちが学ぶコントロール学校 (controlled school) と主にカトリックの子どもたちが学ぶメインテイン学校 (maintained school) に二分化してきた。1998年のベルファスト和平合意では、「共学」を推進することが明確に謳われ、統合学校 (integrated school) と呼ばれる共学校の設立が目指された。

ところが、今日北アイルランドに存在する統合学校は、62校(初等教育レベル42校・中等教育レベル20校)と少なく、そこに学ぶ児童・生徒数は当該学齢人口のわずか7%に過ぎない¹⁴。つまり、北アイルランドでは、依然90%以上の子どもたちがプロテスタント系あるいはカトリック系の学校に通っているのが現実である。

これは、多くの保護者が統合学校に反対しているからであろうか。否、決してそうではない。複数の世論調査の結果から、大半の保護者は統合学校を歓迎していることが判明している。そして、実際に統合学校へ通わせようとしている。たが、近年では毎年約700名の子どもたちが、定員オーバーのために、統合学校への入学が叶わず、やむなく他の学校に進学している。つまり、統合学校の不足が、統合学校で学ぶ児童・生徒の割合を低く留めているのである。

では、なぜ統合学校は増加しないのであろうか。様々な要因が関係していると思われるが、統合学校に対するカトリック教会の不信感が一つの大きな要因として挙げられよう。カトリック教会は、統合学校における教育がカトリックとしてのアイデンティティや文化の喪失につながると危惧しているのである。現在62校ある統合学校の中には、プロテスタントのコントロール学校から移行したものが含まれている。しかし、カトリックのメインテイン学校から統合学校に移行したものは、残念ながら、未だ一校もない。

統合学校という形態以外にも「共学」の実践が試みられている。それは共有教育 (shared education) と呼ばれるものである。共有教育とは、コント

¹⁴ List of Integrated Schools in Northern Ireland.(Department of Education, Northern Ireland) <http://www.deni.gov.uk/articles/integrated-schools>
2016年1月24日閲覧

ロール学校とメインテイン学校がそれぞれのアイデンティティを維持しつつも、キャンパスを共有し、交流を図るプログラムである。

コントロール学校とメインテイン学校の教室を備えた校舎が設けられ、校庭、多目的ホール、図書室などは一緒に使用する。体育、音楽、IT 授業などは共に学び、食堂で共に昼食をとる。北アイルランドの地元新聞ベルファスト・テレグラフの表現を借りるならば「両校の児童は、それぞれの制服を身につけて一緒に正面玄関に入る。そして、二手に分かれてそれぞれの教室へと向かう」¹⁵という光景が日々繰り返されるわけである。

共有教育は、児童の相互理解を促すと同時に、学校運営の経費を軽減できるというメリットもある。また、統合学校への移行よりも着手しやすい。共有教育プログラムを「統合学校を水で薄めただけのもの」と酷評する向きもある。しかし、緩やかな交流の継続が他者理解を育むであろうことは、想像に難くない。北アイルランド自治政府教育省は共有教育の推進を公約し、5年以内に共有キャンパスを10カ所設置することを目標に掲げている¹⁶。

5. アイルランド・メソジスト教会による共学への取り組み

1) Council on Social Responsibility

アイルランド・メソジスト教会には様々な社会問題と向き合う「教会の社会的責任を考える協議会 (Council on Social Responsibility 以下 CSR と略す)」が設置されている。貧困、自殺、アルコール依存などの問題に対する政府政策に対して積極的な提言を行っているが、北アイルランドの和平推進は重要な関心事項である。

アイルランド・メソジスト教会は、社会学者デュルケームが『社会分業論』で展開した「機械的連帯／有機的連帯」の概念を援用し、北アイルランドの社会を次のように描写している。「機械的連帯は、社会成員の同質性の結果として生じる団結や統合である。すなわち、人々は類似した職業・教育・宗教・

¹⁵ *Belfast Telegraph* 2013年3月28日掲載記事

¹⁶ 齋藤元子「北アイルランドの「共学」事情」, 大分県アイルランド研究協会会報第30号, 2015年, 10~11頁。

ライフスタイル・文化を通して結束感を認識する。そのような社会においては、しばしば連帯は親類縁者など親しい者同士のネットワークや同族意識に基づいている。これに対して、有機的連帯は、人々の補完意識から生じるものである。そのような社会においては、人々は異なる職務に就き、異なる価値観や興味を有しているにもかかわらず、団結が生まれる。なぜならば、秩序、まさに社会的連帯が成員の信頼関係の上に成り立っているからである。人々は各人が自らの職務をきちんと遂行することを信じているのである。デュルケームの概念をそのまま適用することはあまりに単純すぎるが、それでもなお、現在の北アイルランドには、機械的連帯のあらゆる特徴を見出すことができると言わざるを得ない¹⁷と。

2010年北アイルランド自治政府は「団結・共有・統合のためのプログラム協議会文書（Programme for Cohesion, Sharing and Integration Consultation Document）」を公表し、さらなる和平推進のための緊急課題・中期目標・長期目標などを掲げた。アイルランド・メソジスト教会 CSR は、これに対するコメントを発している¹⁸。このコメントにおいて、とりわけ目を引くのが若者の将来に対する責任である。第2章・第4章で記したように、北アイルランドでは依然多くの若者が日常生活や教育の場においてプロテスタントとカトリックに分離している。自治政府文書がセグリゲーションの状況改善を中期目標としたのに対して、CSR は最も緊急性のある問題であると指摘し、中期目標に追いやるべきではないと非難している。また、プロテスタントとカトリックが共に住める環境づくりの奨励を長期目標としている点にも不満を表明している。

アイルランド・メソジスト教会は、自治政府の政策に対する提言や意見を述べるに留まらず、第4章で紹介したプロテスタントとカトリックが共に学ぶ統合学校（integrated school）の運営にも関与している。現在北アイルラ

¹⁷ Council on Social Responsibility, Methodist Church in Ireland “Response to Programme for Cohesion, Sharing and Integttation Consultation Document” 2010,p.6.

¹⁸ 前掲書 17.

ンドには 62 校の統合学校があることは既述したが、そのうち半数の学校が何らかの形で近隣のメソジスト教会と関係を持っているようである¹⁹。

また、ベルファスト和平合意が締結された 1998 年当時アイルランド・メソジスト教会のプレジデントであったノーマン・タガート牧師 (Rev. Dr. Norman Taggart) が統合学校の推進活動に従事する団体である北アイルランド統合教育協議会 (Northern Ireland Council for Integrated Education) の支援者として、現在、名を連ねていることも注目できる²⁰。

2) Transferor Representatives' Council

「移行代表委員会 (Transferor Representatives' Council 以下 TRC と略す)」は統合学校ならびに第 4 章でも触れた共有教育 (shared education) の推進を図るために、メソジスト教会・アイルランド教会・長老派教会のプロテスタント 3 教会が合同で設立した組織である。

3 教会は、教会総会などそれぞれの最高議決機関において、北アイルランド自治政府による統合学校・共有教育の推進政策を強く支持することを決議し、TRC を組織して合同で政策に対するコメントや提言を発している²¹。ま

¹⁹ Macaulay, Tony “Churches and Christian Ethos in Integrated Schools” 2009,p.40,
<http://cain.ulst.ac.uk/issues/education/docs/macaulay270109.pdf> 2016 年 1 月 24 日閲覧

²⁰ List of Patrons:Northern Ireland Council For Integrated Education,
<http://www.nicie.org/get-involved/nicie-patrons/list-of-patrons/> 2015 年 12 月 31 日閲覧

²¹ ①Transferor Representatives' Council (TRC) “Submission to the NI Committee for Education : Shared/Integrated Education Inquiry” October 2014.
www.niassembly.gov.uk/.../transferor-representatives-council.pdf 2016 年 1 月 24 日閲覧
②Transferor Representatives' Council (TRC) “Submission to the Northern Ireland Assembly Committee for Education on the Shared Education Bill” November 2015.

た、TRC はベルファスト・クイーンズ大学が取り組んでいる共有教育プログラムや前節1)の終わりに言及した北アイルランド統合教育協議会(Northern Ireland Council for Integrated Education) のアドバイザー、協力者として実践的な活動も行っている²²。

TRC は次のように主張する。統合学校と共有教育は多くの教育的成果が期待できるのみならず、設備、スタッフ、教材といったハード・ソフト双方の点で資源の有効的な活用が可能であり、何よりもプロテスタントとカトリックの友好関係の構築そして両者の結合の促進に対して多大な可能性を有している²³。しかし、北アイルランド自治政府による現在の統合学校ならびに共有教育の推進政策においては、いくつかの視点が欠如しているとも指摘する。TRC がとりわけ強く指摘する政策の欠点とは、①スペシャル・スクールと②社会・経済的格差の2点に対する配慮の不足や欠如である。それぞれの点について、TRC の具体的な主張を紹介したい。

まずは①スペシャル・スクールについてのTRCのコメントから見ていこう。心身に障がいをもつ子どもたちが学ぶスペシャル・スクールは、学校教育の重要な部分を占めている。スペシャル・スクールの教師たちは特別な知識や技能を有しており、プロテスタント系とカトリック系の教師が経験を持ち寄れば、さまざまなサポートを必要としている児童・生徒により良い教育環境を与えることができる。加えて、プロテスタントとカトリックの垣根を越えた活動に障がい児を包摂することは、健常児にとっても多様性を学ぶ優れた機会となるはずである。今後各地で共有教育プログラムが実施されることを望むが、現在の政策においてスペシャル・スクールへの配慮が十分に見られないのは残念なことであり、どのような形であれ、スペシャル・スクールの参加は念頭に置くべきであるとTRCは述べている²⁴。

次いで②社会・経済的格差に関するTRCのコメントに移ろう。統合学校な

www.niassembly.gov.uk/.../transferors-representative-council.pdf 2016年1月24日閲覧

22 前掲書 21①,p.2~p.3.

23 前掲書 21①,p.6.

24 前掲書 21①,p.6.

らびに共有教育は、プロテスタントとカトリックの融合を目指すものであるが、それが特定の社会階層の子どもたちのみを対象とする限定されたものになってはならないと TRC は主張する²⁵。現在開校している統合学校を「ミドルクラスの子どもたちのための学校」とみなす風潮もある²⁶。第2章でも示したように、北アイルランドには今日もプロテスタント地区あるいはカトリック地区と呼ばれる地域があり、2地区を隔てるピース・ラインも多数残っている。ベルファスト西部・北西部はその典型的な地域であり、また同時に、相対的に所得の低い住民が多い地域でもある。プロテスタントかカトリックかという帰属意識は所得や社会的地位の上昇につれて希薄となり²⁷、ミドルクラスの住宅街では隣人の宗派にはほとんどこだわりがないと言われていた。つまり、統合学校や共有教育を政府の政策としてより重点的に推進しなければならないのは、セグリゲーションの状況にある低所得者層地域であり、ミドルクラスの子どもたちが集う統合学校が増加したとしても、共有教育の実現とは言えないと述べている²⁸。

以上紹介した①スペシャル・スクールと②社会・経済的格差に関する TRC のコメントから明らかに読み取れるのは、統合学校や共有教育は北アイルランドに在住するすべての児童・生徒に向けられるべきものであり、ハンディキャップを背負った子どもたちを排除することがあってはならないという TRC の強い姿勢である。

最後に TRC の活動として触れなければならないことがもう一点ある。統合学校あるいは共有教育について論じる際、避けることができないのが宗教教育の問題である。TRC は北アイルランド自治政府による統合学校・共有教育

²⁵ 前掲書 21②, p.2.

²⁶ 前掲書 16, 11 頁。

²⁷ Mattar, Daniela Vicherat “Urban Development Flanked by Religion and Politics : Reflections from the Belfast History” p.4.(The paper presented at the 10th Roundtable on Transnationality, Irmgard Coninx Foundation - WZB essay competition on urban governance: innovation, insecurity and the power of religion, Berlin, March 2009.)

の推進を支持しているが、それは宗教教育を排した教育の推進を支持しているという意味ではない。

昨年、TRC は一つの理想型としてマルチ信仰学校 (Multi-Faiths School) を提唱した。TRC とカトリック教会が協同して超教派の学校を設立し、運営に当たるといふものである。マルチ信仰学校は、宗教教育を排除するのではなく、教派を超えたキリスト教信仰に基づく教育を目指している。2011 年英国リバプールに設立されたホープ・カレッジに着想を得ている。ホープ・カレッジは、カトリック教会と聖公会が協同で運営する中等教育機関である。TRC はすでにカトリック教会の司教らと協議を重ね、運営方針などに関して大筋合意に達しており、北アイルランド自治政府の教育省も関心を寄せている²⁹。近い将来、北アイルランドで最初のマルチ信仰学校が誕生する可能性は高い。

6. おわりに

近年、日本のテレビや新聞で北アイルランドが報じられることはあまりない。2012 年 4 月タイタニック号事件百年を記念して同船建造の地ベルファストにタイタニック博物館オープン³⁰、2012 年 6 月エリザベス女王の北アイルランド訪問³¹、2013 年 6 月安倍首相も参加した北アイルランドでの主要 8 カ国 (G8) 首脳会議開催³²の新聞記事は、筆者が目にした数少ない北アイルランドにまつわる報道である。つまり、第 2 章で記した和平合意以降の北アイルランドの状況に関しては、日本ではほとんど報じられてこなかった。

²⁸ 前掲書 21②, p.1~p.2.

²⁹ *Belfast Telegraph* 2015 年 2 月 19 日掲載記事

³⁰ 「タイタニック 「封印」 解けた 建造地 英・ベルファスト」2012 年 4 月 11 日朝日新聞掲載記事

³¹ 「対立超え、がっちり 英女王と北アイルランド副首相」2012 年 6 月 26 日朝日新聞掲載記事

³² 北アイルランド 来月 G8 開催 宗派対立超え 晴れ舞台」2013 年 5 月 5 日日本経済新聞掲載記事

本稿の冒頭でも述べたが、北アイルランドの和平は着実に進行している。しかし、プロテスタントとカトリックのセグリゲーションは依然存在し、アイルランド・メソジスト教会はこの状況を「平等であるが分離している (equal but separate)」³³と表現し、とりわけ学校教育における分離を危惧して、第5章で紹介した積極的な提言や活動を実践してきている。

アイルランドにおいて、メソジスト教会は三大プロテスタント教派の一つに位置づけられてはいるが、教会規模の点では、アイルランド教会と長老派教会に比べて、はるかに小さい。だが、現在開校している統合学校の半数近くがメソジスト教会の協力を得ているという事実は、メソジスト教会が、単独またはTRCの活動を通じて、統合学校ならびに共有教育の推進に尽力していることを物語っていると言えよう。

今後、低所得者層地域における統合学校や共有教育の展開、あるいはマルチ信仰学校の設立が目指される中、アイルランド・メソジスト教会がどのような提言や活動を提示していくか注目を続けたい。

(お茶の水女子大学・青山学院女子短期大学 講師)

³³ 前掲書 17,p.2.